

## 第 26 回学連剣友剣道大会出場 《外国大学連合チーム感想文》

----- Short version (母国語+日本語訳) -----

翻訳協力：東京藝術大学美術学部体育研究室  
教育研究助手 尹(ユン)熙喆 氏

### **【先鋒】Abul Hasan Johari(Malaysia)** original text written in Malay

Saya ingin mengucapkan ribuan terima kasih kerana memberi saya peluang untuk mengambil bahagian dalam pertandingan ini. Peluang ini hanya menjadi kenyataan disebabkan peluang diberikan oleh Sensei. Pertandingan ini meninggalkan kesan yang dalam bagi saya, dari permulaan sampai ke akhir pertandingan. Membuatkan saya rasa tertanya-tanya masa depan kendo yang kelihatan makin cerah. Saya yakin ramai orang luar akan berminat dan ingin menyertai pertandingan yang level tinggi ini. Saya akan berusaha untuk berlatih dengan lebih kuat lagi, dan berharap akan dapat bertanding lagi dimasa hadapan. Saya ingin mengucapkan sekali lagi terima kasih, dan harap berjumpa dengan anda sekalian di masa hadapan.

#### (日本語訳)

第 26 回東京学連剣友剣道大会に参加させていただいて大変光栄でございます。このような素晴らしいことが実現できたのは、いろいろな先生方々が我々にチャンスを与えてくれたからと思います。特に、この大会は、大会が始まる前と終わった後まで大変深い印象を残しました。開会式での先生方々のお言葉から、これからの剣道を思うと、思わず心がドキドキしました。このようなハイレベルな大会がより数多くの外国人に広がることができればよいと思います。絶対みんなが喜んで参加しますから。こちらからもより多く稽古し、また、いつかこの大会に出場したいと思います。あらためて、皆様に感謝を申し上げます。そしてまた、将来に皆様と竹刀を合わせて会いましょう。

### **【次鋒】ジョン・コン(Korea)** original text written in Korean

다양한 연령대의 검도를 보고 같이 즐길 수 있었다는 생각이 듭니다. 지금까지 일본의 검도는 한국의 검도와 다르다고 생각하였지만, 어떻게 보면 그렇게 다른게 아닐수도 있겠구나하는 생각을 하게되었습니다. 가장 인상 깊었던 것은 경기장과 무도관을 지키는 검도인들의 마음, 질서 정연한 모습, 선생님들께서도 끝까지 자리를 지켜가며 모든 경기를 관람하시고 의견도 나누시는 모습이 가슴에 남습니다. 마지막으로, 팀원

모두 국적은 다르지만 서로의 몸이 부딪치며 연습한 그때가 다시오기를 희망해봅니다. 준비해주시고 대회에 참석할 수 있도록 도와주신 분들께 감사의 인사 올립니다.

(日本語)

多様な年代の剣道を観戦しながら、みんなが楽しめる剣道大会だったと思います。これまで、日本剣道は韓国剣道と比べて異なるものだと思ってきましたが、今回の大会を観戦し、それは間違っているかも知れないと思いました。一番印象深かったことは、競技場と武道館を守っている剣道人のこころ、秩序整然とした観客、最後まで席を外さずにすべての試合を観戦しながら、お互いに意見を交わす先生たちの光景が、今までも胸の中に残っています。最後に、チーム選手たちは異なる国籍であるが、お互いに体をぶつけながら練習したその日が再び来ることを望みます。大会の準備にはじまり、大会に参加出来るように手伝ってくださった方々に感謝の言葉を伝えたいと思います。

**【三鋒】 Cain Lee(Australia)** original text written in English

Being able to participate in the 26th Tokyo University Taikai have been a great experience, and it helps answer a lot of questions from my Kendo friends in Australia, will we ever be able to participate in such events to experience competing Kendo with the locals at such a high level. Now, I can say "yes". But we must continue to train hard because the expectations will be high from us oversea. Thank you for this opportunity and if I have the chance to participate again, I will.

(日本語訳)

第26回東京学連剣友剣道大会に参加出来たことは、大変素晴らしい経験でした。そして、この経験がオーストラリアの剣友たちの数多くの質問に答えられるように助けてくれました。ハイレベルの日本の剣友たちと競い合える大会に参加出来るかという問いに対し、今の私は「イエス」と言えると思います。しかし、外国からの私たちに対しての高い期待に応じられるためには、ハードなトレーニングを続けなければならないと思います。このような機会をくださったみなさんに感謝いたします。そして、また、参加出来るチャンスがあれば、是非参加したいと思います。

## 【中堅】Stuart Gibson(Great Britain) original text written in English

From the hearing the first introductions and greetings from the sensei running the competition, to watching the final matches at the end of the day, I was happy to take part in a taikai that felt a little different, a little more special. You could feel that it had all the rivalry and spirit of the actual university competitions, but a little more warmth and friendship from people who have grown as competitors and adults. It was a great privilege to be allowed to compete in this taikai, I and hope that I have to opportunity to compete again in the future, and the chance to progress a little further next time.

(日本語訳)

開会を宣言する先生の挨拶から、閉会前の決勝戦を観戦するまで、私は他の大会と比べて少し異なる、少し特別な大会に参加していることに幸せでした。みなさんは、この大会が実際に大学チームの間にライバル意識が生きている場所だと思っているかも知れませんが、私は、競争者でありながら大人に成長した参加者たちの温かい心と友情が感じられる大会でした。この大会に参加の機会が与えられたことは、私にとって非常に特別な経験になりました。今後も、競い合える機会が私にまた来てほしいし、この契機を通じ、私自身にも少しでも進歩出来る機会になることを望みます。

## 【三将】パク・ジョンソン(Korea) original text written in Korean

평소, '검도는 이렇다'라고 글이나 영상을 통해서 보아왔지만, 대회장에서 20 대에서 80 대까지 한 자리에서 함께 호흡하고 같이 자리 할 수 있는 모습에서, 지금까지 알고 있던 검도의 또 다른 면을 보았다. 연합팀으로서 우리팀은, '구성원 각자가 서로 다른 국적과 언어를 쓰고 있지만, 검도를 향하는 마음이나 생각의 언어는 같다'라는 생각을 해보았다. 팀원들 서로 서로 다른 팀원을 위하고 생각해 주는 사이 짧은 시간에 서로 서로 소통할 수 자리가 만들어지는 모습에서 검도가 가지고 있는 또 하나의 매력을 보았다. 자신의 시합이 끝나고서, "상대가 있기에 나도 있다"라는 사실과 "상대를 통해서, 평소 내 자신이 어떻게 수련했는가"에 대해서 한 번 더 생각해 볼 수 있는 기회가 되었다. 이번 대회에 참가 할 수 있었던 기회를 통해 "나도 상대에게 좋은 상대가 되도록 좋은 마음 가짐을 가지고 수련에 임해야 겠다"라고 생각을 정리해 본다.

(日本語訳)

普段、「剣道はこうである」という本や剣道に関する映像をよく見ていますが、20代から80代までが一堂に会した今回の大会を経験し、これまでの自分が理解していた剣道とは異なる剣道の一面を見る事が出来ました。外国大学連合チームとして、「構成員たちはそれぞれ国籍が異なり、異なる言葉を使いますが、剣道に向かう心や考え方は同じである」ことが分かって来ました。チームメンバー全員が、

短い時間でも一緒に考えることは、剣道を通じて可能となるということにもう一つの剣道の魅力を感じました。自分の試合が終わってから、「相手がいるからこそ自分自身がいる」という事実と「相手を通じて、私がどう修練してきたのか」についてもう一度考える良い機会となりました。今回の大会に参加出来たことを通じて、「私自身も相手にとって良い相手になるために良い心構えを持って修練に臨まなければならない」と思います。

**【副将】 Hartmut Walter(Germany)** original text written by German

Es war für mich eine grosses Erlebnis, beim 26. Tokyo Gakuren Taikai 2016 , der Mannschaftsmeisterschaft des Universitätskendoverbandes Tokyo, teilzunehmen.

Nicht nur wegen der schieren Grösse des Turniers, 229 Mannschaften in drei Kategorien auf zehn Kampfplätzen, oder wegen der Tatsache, das ich als Mitglied des ersten internationalen Teams teilnehmen durfte.

Es war wegen der besonderen Atmosphäre, die auf diesem Turnier herrschte. Eine Atmosphäre, hervorgerufen durch die sichtbare, zum Teil jahrzehntelange Freundschaft der Teilnehmer untereinander, durch die besonderen

Einleitungsworte von Takahashi sensei und Toda sensei in der Eröffnungszeremonie, die die Teilnehmer motivierte, den vorhandenen eigenen hohen Anspruch an Kendo auch in einem Turnier-Shiai zu zeigen.

Durch die Altersvorgaben in den Regeln waren Kämpfer von 23 bis 75 Jahre vertreten. In Deutschland, vielleicht in ganz Europa, sind Turniere etwas für junge Leute, Kendoka über 40 Jahre sind auf Turnieren kaum zu finden. Was für ein Verlust dies für eine Kendogemeinschaft sein kann, kann man nur verstehen, wenn man in einem solchen Turnier einen hervorragenden Finalkampf sehen kann, in dem kein Kämpfer unter 70 Jahre alt ist. Ein solches Erlebnis wünsche ich mir für mehr meiner Kendofreunde in Deutschland.

Ich hoffe, im nächsten Jahr wieder an diesem Turnier teilnehmen zu können und werde weiter trainieren, um die Leistung des Teams und auch meine eigene zu verbessern.

Ich bin Takahashi sensei dankbar dafür, dass er uns diese Erfahrung ermöglicht hat.

(日本語訳)

第26回学連剣友剣道大会への出場は、私にとってとてもいい経験でした。229チームも出場するほど、大きな大会であったこともそうですが、この大会で私が初めての国際チームのメンバーとして出場できたからです。

より高いレベルでの剣道そして試合を目指すべきである、という開会式での高橋先生と戸田先生のお言葉は、当時会場にいた選手たちのモチベーションを高め、会場の雰囲気まで変えました。

年齢制限があるため、試合に出場したメンバーの年齢は23歳から75歳まで。ドイツだけでなく、ヨーロッパでの大会は若者たちだけの

大会になっているため、40歳以上の選手が出場することはなかなか見られない光景である。決勝戦で70歳の選手の素晴らしい試合を見て、このような試合が（ヨーロッパで）見られないのは剣道界の大損であると痛感しました。私は機会があれば、このような雰囲気・試合を、ドイツにいる仲間たちもぜひ見て感じてほしいと思いました。

来年ももし機会があれば、この大会に出場したいと思います。次回こそチームに貢献できるよう、今後の稽古に全力を尽くしたいです。最後に、このような機会を与えて下さった高橋先生に感謝の言葉を伝えたいです。

**【大将】 J. J. Lavigne(France)** original text written by French

Ça a été un très grand honneur et un immense plaisir d'avoir été invité à combattre comme Taisho de la première équipe internationale à participer à cette compétition.

J'ai été particulièrement impressionné par le nombre de participants, leur niveau, la qualité de leur kendo, mais surtout leur âge (des plus jeunes aux moins jeunes, dont je fais maintenant partie) qui démontre que le Kendo n'est pas un sport comme les autres.

（日本語訳）

今回の大会で、初の国際チームの大将を勤めさせていただき、本当に光栄でした。大会に出場したチームの数や選手たちの強さ、剣道の素晴らしさに驚きましたが、何よりも印象深く感じたことは、選手たちの年齢でした。若い方から、高齢の方まで、彼らの試合を見てやはり剣道は他の競技と異なり、「スポーツ」ではないことを実感しました。

以上

---

*Special thanks*

to Mr. Yun for his big corporation  
to this honorable and memorable event .  
(from all members of 東京学連剣友連合会)